アンコール

伊藤貴晴　作

【登場人物】

　　男１　大学三年生

　　男２　大学七年生

　　男３　不動産会社社員

　　男４　女１の兄

　　男５　大学教授

　　女１　大学一年生

　　女２　女１の妹

【１】

　　アパートの二階の一室。男１が住んでいる。

　　部屋の中央にバケツが置いてある。天井から水が落ちてくる。

　　男１がバケツと水を見ている。玄関のチャイムが鳴る。男１は玄関へ。男２がいる。

男１　　何しに来たの？

男２　　ちょっと話聞いてもらっていいかな

男１　　話？

男２　　いい話

男１　　帰って

男２　　何でだよ

男１　　何だよ、話って

男２　　それはこれから

男１　　いいよ、帰って

男２　　すぐ済むから

男１　　いらない

男２　　頼むよ

男１　　いいから帰って

男２　　お邪魔します

男１　　あ、ちょっと

　　男１・男２、登場。

男２　　ま、座ってよ

男１　　俺ん家だよ

男２　　分かってるよ

男１　　勝手に上がるなよ

男２　　お茶はいいから

男１　　出さねえよ

男２　　相変わらず綺麗にしてるな

男１　　帰って

男２　　いいから話聞けよ。悪い話じゃないからさ

男１　　嘘つけ

男２　　本当だよ。話っていうのは、これなんだけどね

　　男２はコンドームの箱を出す。

男１　　これ、何？

男２　　コンドーム

男１　　は？

男２　　どう？　セックスしてる？

男１　　警察呼んでいい？

男２　　待てって。話聞けよ

男１　　嫌だよ。何の話だよ

男２　　だからコンドームの話だよ

男１　　何なんだよ

男２　　いや、簡単に言うとさ、買わない？　コンドーム

男１　　買わない

男２　　何で？

男１　　いらないよ

男２　　いるだろ

男１　　間に合ってます

男２　　いや、間に合わないよ

男１　　帰ってください

男２　　消耗品なんだから、買い溜めしとかないと

男１　　使わないから

男２　　使わないの？

男１　　うん

男２　　ダメだよ、避妊しなきゃ

男１　　何の話だよ

男２　　避妊の話だよ

男１　　帰れ

男２　　お前さ、避妊はしなきゃダメだよ。それはもう男の義務だよ。ゴムは絶対つけなきゃダメ。ダメ、絶対（※１）。お前、孕ませたら責任取れる？　それで泣くのは女の子なんだから。ちゃんと相手のこと考えないと。その思いやりが大事なんだよ。そこで男の優しさを見せないと彼女に嫌われるだろ。彼女いるだろ？

男１　　いない

男２　　いないって言ったって、これからできるに決まってるだろうが。大学生活何だと思ってるんだよ。女なんて周りにいくらでもいるだろ。しかも一人暮らしなんて、やりたい放題じゃん。彼女作らないと、大学生活なんてクソだよ。それで何が楽しいの？　ちゃんとサークル入って、合コン行って、遊ばないと。ダメだよ、まだまだこれからなんだから。何のために大学入ったんだよ

男１　　勉強するためだよ

男２　　社会勉強だな

男１　　帰れ

男２　　話がそれた。どこまで話したっけ？

男１　　おい

男２　　そうそう、避妊の話。避妊はちゃんとしないといけません。かといってね、安物はダメです。すぐ破れるから。その点ウチのは大丈夫。とっても丈夫。まず破れない。しかも薄い。ほとんどつけてないのと同じ感覚で楽しめる。ぜひ試してみてほしい

男１　　ねえ、先輩

男２　　何？

男１　　何してるの？

男２　　訪問販売だよ

男１　　何でこんなことやってんの？

男２　　バイトだよ

男１　　授業は？

男２　　今日は休みだろ

男１　　平日は何やってるの？

男２　　バイト

男１　　授業は？

男２　　あるよ

男１　　出ないの？

男２　　バイトがあるから

男１　　出ろよ

男２　　馬鹿野郎。学費のために働いてるんだろうが

男１　　授業出なきゃ意味ないだろ

男２　　真面目だな、お前は

男１　　普通だよ

男２　　ま、自分で授業料払ってる苦労はお前には分からんだろ

男１　　もう辞めたら？

男２　　何を？

男１　　大学

男２　　嫌だよ。中退なんて格好悪い

男１　　今、大学何年目？

男２　　七年目

男１　　もう辞めたら？

男２　　嫌だよ、格好悪い

男１　　今でも十分格好悪いよ

男２　　お前、ひどいこと言うなあ

男１　　いい加減卒業しろよ

男２　　分かってるよ

男１　　だったら勉強しろよ

男２　　世の中、金がいるんだよ

男１　　そのバイト、金になるの？

男２　　いいぞ、この仕事は。基本給プラス歩合だからな。やりがいを感じるね

男１　　そのまま就職しちゃえばいいじゃん

男２　　いやいや。こんな低俗な仕事は俺には似合わないよ

男１　　あんた低俗な人間だろ

男２　　そんなことないよ

男１　　向いてると思うよ。詐欺とか

男２　　詐欺じゃねえよ

男１　　それで警察に捕まって、刑務所に入ってれば世の中平和になるからさ

男２　　俺がいると平和じゃないのか

男１　　波瀾万丈だよ

男２　　よかったじゃないか

男１　　よくねえよ

男２　　そうだ、お前、教授見たか？

男１　　教授？

男２　　俺のゼミの教授

男１　　いいや

男２　　そうか

男１　　教授って、海外行ってるんじゃないの？

男２　　帰ってきてるらしいんだ

男１　　本当に？

男２　　見つかったらまたどっか連れて行かれるからな

男１　　行けばいいじゃん

男２　　行ったら卒業できないだろ

男１　　諦めろよ

男２　　嫌だ

男１　　教授が先輩のこと捜してるの？

男２　　ああ。だから大学に顔出すとまずいんだ

男１　　ふーん

男２　　で、これ何？

　　男２はバケツを指す。

男１　　何だと思う？

男２　　え？　何？　クイズ？　何だろう

男１　　バケツだよ

男２　　あ、バケツか。分かるよ

男１　　そりゃ分かるだろ

男２　　何でこんな物、置いてるの？

男１　　何でだと思う？

男２　　え？　何？　クイズ？　何でだろう。ヒント

男１　　上、見て

男２　　見た

男１　　見たら考えて

男２　　雑巾を絞る

男１　　違います

男２　　分かんねえよ

男１　　見たら分かるだろ

男２　　え？　何だよ

男１　　上、見て

男２　　見た

男１　　何がある？

男２　　天井

男１　　何かおかしくないか？

男２　　いや、別に何にもおもしろくないけど

男１　　何か変わったことはないか？

男２　　えっとね、水が落ちてくる

男１　　ということは

男２　　天井から落ちてくる水を受け止める

男１　　正解

男２　　やった。じゃあ第二問

男１　　第二問はない

男２　　あ、終わりか。賞品は？

男１　　ねえよ

男２　　ハワイか？

男１　　何でこんな問題でハワイ旅行が当たるんだよ

男２　　違うよ、ハワイ旅行じゃねえよ

男１　　何が？

男２　　ハワイが俺の物になるんだよ

男１　　へえ、良かったね

男２　　心がこもってない

男１　　あんたのために込める心はない

男２　　お前、先輩に対してそれはひどいんじゃないか？

男１　　だったらちょっとは先輩らしいことしてみろよ

男２　　難しいな

男１　　まったく、もう

男２　　で、これ何？　雨漏り？

男１　　雨漏りじゃないだろ

男２　　何で？

男１　　だって、上にも部屋あるもん

男２　　あ、そっか。上、誰？

男１　　さあ？

男２　　聞いてみたら？　何があったのか

男１　　行ったけど、いないみたい

男２　　死んでんじゃないの？

男１　　まさか

男２　　あれだって。風呂場で手首切ってさ。そのうちこの水が赤い色になるんだよ

男１　　嫌なこと言うなよ

男２　　警察呼ぶか？

男１　　いいよ

男２　　倒れてたらどうすんだよ

男１　　倒れてないって

男２　　何で分かるんだよ

男１　　もういいから。先輩、帰って

男２　　どうして？

男１　　先輩がいるとろくなことがないんだもん

男２　　そんなことないよ

【２】

　　玄関のチャイムが鳴る。

男１　　はーい

男２　　警察か？

男１　　違うだろ

男２　　聞き込み捜査だって

男１　　違う

　　男１、玄関へ。男３がいる。

男３　　ニコニコ不動産の男３と申しますが

男１　　あ、どうも

男３　　男１さんでしょうか？

男１　　はい。わざわざすみません

男３　　いえいえ。どうしましたか？

男１　　とりあえず、上がってください

男３　　はい、失礼します

　　男１・男３、登場。

男２　　おつとめご苦労様です

男３　　あ、どうも

男２　　事件ですか？

男３　　え？

男２　　事件ですよね？

男３　　何がですか？

男２　　警察の方ですよね

男３　　違いますけど

男２　　警察の方ですよね

男３　　いや、違いますけど

男２　　何で違うんですか

男３　　いや、何でって言われても

男１　　不動産会社の人だよ

男２　　不動産会社？

男３　　ニコニコ不動産の男３と申します

男２　　何で不動産会社の人が来るの？

男１　　俺が呼んだの

男３　　あの、こちらの方は

男１　　気にしないでください。大学の先輩です

男２　　男２です。よろしく

男３　　はあ、どうも

男１　　で、これなんですけど

　　男１はバケツを指す。

男３　　はい

男２　　何だと思います？

男３　　え？　バケツじゃないんですか？

男２　　ただのバケツじゃないんですよ。ＮＡＳＡが開発した衝撃吸収材を使用しておりまして、滅多なことでは壊れません

男３　　ほう

男１　　おい

男２　　バケツに必要な性能は、まず耐久性です。これなら割れたり穴が空いたりすることはありません

男３　　なるほど

男２　　バケツっていうのは人間が生み出した機能美の結晶ですよ。大きすぎず小さすぎず、シンプルで美しい。取っ手のアンバランスさが哀愁をそそるでしょ

男３　　そうですね

男２　　家にひとつくらいバケツは必要なんですよ。どうです？　今ならこれ、一万円で提供しますが

男３　　一万円ですか

男２　　高いと思うかもしれませんが、この性能でこの値段は安い方ですよ。買ってみればどれだけ得だったか分かるはずです

男３　　そうですか

男１　　おい

男２　　何？

男１　　売るな

男２　　あ、ごめん。つい

男１　　つい、じゃねえよ

男３　　分かりました。一万円ですね

男１　　え？

男２　　ありがとうございます

男１　　ちょっと、買っちゃダメですって

男３　　なぜ？

男１　　なぜって

男３　　あ、あなたが買うんですか？

男１　　俺は買いません

男３　　だったら私に売ってください

男１　　これは俺のバケツです

男３　　え？　なぜ？

男１　　なぜって

男２　　こいつが盗ったんです

男１　　え？

男２　　こいつ、泥棒です。刑事さん、取り返してください

男１　　デタラメ言うな

男２　　デタラメ言ってるのはどっちだ

男１　　お前だよ

男３　　え、どういうことですか

男２　　いや、そうじゃないでしょ

男１　　何がだよ

　　男２は男３に耳打ちする。

男３　　言い訳は署で聞こう

男１　　あんた警官じゃないでしょ

男３　　でも、そうやって言えって

男２　　ほら、自首しろよ

男１　　ふざけんな、お前

男３　　何がどうなってるんですか？

男１　　これは普通のバケツです

男３　　ＮＡＳＡのバケツじゃないんですか？

男１　　違います

男３　　そうなんですか

男１　　何でそんなに落ち込むんですか

男２　　お前がこの人の夢を奪ったんだよ

男１　　あんたが変なこと言うからだろ

男２　　口が滑った

男１　　滑りっぱなしだな、その口は

男３　　でも、このバケツはこの人の物なんですよね？

男１　　俺のです

男３　　そうなんですか？

男１　　いいですか。こいつは嘘つきなんですよ

男２　　違うよ。俺は物事を自分の都合のいいようにしようとしてるだけだよ

男１　　黙れ七年生

男２　　くそ、傷つくこと言いやがって

男３　　何だかよく分からなくなってきました

男２　　いいですか。俺はね、セールスマンなんですよ

男３　　セールスマンですか

男２　　そう。そしてあなたは刑事

男３　　刑事

男１　　おい

男２　　いいですか？　私は？

男３　　セールスマン

男２　　あなたは？

男３　　刑事

男１　　違うだろ

男２　　そうだな。もっと刑事っぽい方がいい

男１　　そういうことじゃない

　　男２は棚からコートを出し、男３に渡す。

男２　　これ着てください

男３　　はい

男１　　おい

男２　　あと帽子

　　男２は男３に帽子を渡す。

男３　　はい

男２　　お、サングラス発見

男１　　あんたがこの前、置いてったんだろ

　　男２は男３にサングラスを渡す。

男２　　これかけて

男３　　はい

男２　　お、エアガン発見

男１　　あんたがこの前、置いてったんだろ

男２　　そうだっけ？

男１　　余計な物ばっかり増えるんだよ

　　男２は男３にエアガンを渡す。

男２　　これ持ってください

男３　　はい

男２　　完璧

男３　　ちょっと暑いんですけど

男２　　我慢です

男３　　はい

男２　　格好良いですよ

男３　　そうですか？

男１　　逮捕されてしまえ

男２　　じゃあ改めてバケツの話を

男３　　はい

男２　　ここにあるのは何の変哲もないバケツです

男３　　はい

男２　　なぜここにバケツがあると思いますか？

男３　　なぜですか？

男２　　それはここにバケツがあるからです

男３　　はい

男２　　これが哲学です

男１　　おい

男２　　物体というのは、思うことによって存在するんです

男１　　先輩、もう帰って

男２　　ここにバケツがあると思うからバケツはここにあります

男３　　はい

男１　　俺の話聞いて

男２　　なぜここにバケツが置いてあるのか。謎を解く鍵は天井にあります

男３　　天井？

男２　　上を見てください。水が落ちてきますね

男３　　はい

男２　　その水を見ていると、あなたはだんだん眠くなってきます

男１　　ならねえよ

男２　　邪魔するなよ

男１　　お前が邪魔だ

男２　　余計なことを言いたくなるんだよ

男１　　口、縫ったら？

男２　　喋れないと死んじゃうんだよ

男１　　どんな生き物だよ

男３　　だんだん眠くなってきました

男１　　嘘

男２　　かかるもんだな、これ

男３　　これ、何で水が落ちてくるんですか？

男２　　どうしてだと思います？

男３　　雨漏りですか？

男２　　違います

男３　　どうして？

男２　　上に部屋がありますから

男３　　ああ、そうですね

男２　　だからこれは雨漏りではない

男１　　偉そうに

男３　　じゃあ、どうしてですか？

男２　　上で何かあったんです

男３　　何か、とは？

男２　　それを考えるのが俺の仕事です

男３　　あなたの？

男２　　はい

男３　　あなたは一体？

男２　　探偵です

男３　　探偵なんですか

男１　　違うよ

男２　　真実はいつもひとつ（※２）

男１　　何だよ、それ

男２　　名探偵コナンだよ、知らないのか

男１　　知ってるよ

男２　　何の変哲もない天井から水が落ちてくる。日常ではありえない状況。これは事件です

男３　　事件ですね

男１　　違うよ

男２　　密室での事件。謎の水漏れ。そこから導き出される答えは

男３　　殺人事件ですか

男２　　その通り

男１　　俺の話聞いてよ

男２　　殺害されたのは上の部屋の住人。ガムテープでぐるぐる巻きにされてバスタブに沈められた。出しっぱなしの水が溢れて、漏れてきてるんです

男３　　じゃあ警察に

男２　　何言ってるんですか。あなたは刑事でしょ

男３　　あ、そうでした

男１　　そうなの？

男２　　ここからはあなたの仕事です

男３　　私ですか？

男２　　犯人を捕まえられるのはあなたしかいません

男３　　はい

男１　　待って

男２　　さあ

男３　　行ってきます

　　男３、退場。

男１　　どうするの？

男２　　何が？

男１　　行っちゃったよ、男３さん

男２　　うん

男１　　どうして嘘つくんだよ

男２　　人間は、なりたいものに何でもなれるんだ

男１　　なれない

男２　　楽しそうだったよ

男１　　何で信じるかな？

男２　　そういえば、あの人、何しにきたの？

男１　　修理の依頼に呼んだんだよ

男２　　あ、そういうことか

男１　　先輩

男２　　何？

男１　　帰って

男２　　どうして？

男１　　あんたがいるとろくなことにならないんだよ

男２　　そんなことないよ

男１　　あれ、完全に不審者だぞ。エアガン持って走っていったからな

男２　　おもしろくなってきた

男１　　最悪だ

　　玄関のチャイムが鳴る。

男１　　あれ？

男２　　男３さん？

男１　　戻ってきた？

男２　　早いな

【３】

　　男１は玄関に行く。女１がいる。

女１　　助けてください

男１　　え？

女１　　お願いします

男１　　え、あの

女１　　入ってもいいですか？

男１　　あ、うん

女１　　ありがとうございます。失礼します

　　男１・女１、登場。

男１　　あの

女１　　変な人がいるんです

男２　　どんなの？

女１　　怪しい人が私の部屋のドアをドンドン叩いてるんです

男１　　え？

男２　　犯人を捜してるんだ

女１　　犯人？

男２　　ああ

女１　　何かあったんですか？

男２　　殺人事件

女１　　え？

男１　　おい

男２　　気を付けて。犯人はまだ捕まってない。あんたも狙われるよ

女１　　私が？

男２　　ああ。ここから出ない方がいい

男１　　おい、デタラメ言うな

男２　　何がだよ

男１　　さっきのは男３さん

女１　　知ってるんですか？

男１　　ああ

男２　　刑事だよ

男１　　おい

女１　　刑事ですか

男１　　違うよ。ニコニコ不動産の人だよ

男２　　それはカモフラージュだ

男１　　事実だよ

男２　　男３さんには会ったの？

女１　　いえ、たまたま部屋を出たところだったんです。廊下ですれ違って、変だと思ったから階段の影に隠れて見てたんですけど

男２　　上の部屋で殺人事件があったんだ

女１　　え？

男２　　ガムテープでぐるぐる巻きにされてバスタブに沈められた。殺されたのは若い女だ。あんたも気を付けな

女１　　上って、この上ですか？

男２　　ああ、ちょうどこの上

女１　　どうして知ってるんですか？

男１　　え？

女１　　殺人事件があったって、どうして知ってるんですか？

男２　　この名探偵にかかれば、何でも分かってしまうんだよ

男１　　あんたまだそのキャラやるの？

女１　　助けてください

男１　　え？

女１　　このままじゃ、私、殺される

男１　　え？　本当に？

男２　　どういうこと？

女１　　私、犯人を見たんです

男２　　どんな奴だった？

女１　　身長は少し高め。眼鏡をかけて痩せた男です

男２　　大丈夫。俺が必ず捕まえる

女１　　本当ですか？

男２　　任せろ。君のことは俺が守る

女１　　お願いします

男２　　俺、上の様子見てくるから。男１はその子を頼む

男１　　ああ

女１　　気を付けて

　　男２、退場。

男１　　あの、今の本当の話？

女１　　嘘ですよ

男１　　え？

女１　　だって、上、私の部屋です

男１　　は？

女１　　あの人、嘘ついてましたよね

男１　　ああ

女１　　だから私も嘘ついてみました

男１　　君、いい性格してるね

女１　　そうですか？

男１　　先輩が騙されてるのって初めて見た

女１　　あの人、誰ですか？

男１　　大学の先輩

女１　　何か変な人ですね

男１　　詐欺師みたいな奴だよ

女１　　へえ

男１　　で、君は？

女１　　あ、ごめんなさい。女１と言います

男１　　女１（名字）さん

女１　　名前で呼んでください

男１　　え？

女１　　名字で呼ばれるの、嫌いなんです

男１　　そう。えっと、女１（名前）さん

女１　　はい

男１　　俺は男１

女１　　男１さんですね。よろしくお願いします

男１　　ああ、よろしく

　　間。

男１　　で？

女１　　え？

男１　　帰らないの？

女１　　だって、さっきの人たち、まだいますよね

男１　　まあ、そうだけど

女１　　私がいるとお邪魔ですか？

男１　　いや、そんなことは

女１　　よかった

男１　　何でこの部屋に来たの？

女１　　それは非常に申し上げにくいのですが

男１　　うん

女１　　ちょっと様子を見にこようと思って

男１　　上、何があったの？

女１　　これですか

　　女１はバケツを指す。

男１　　そう、これ

女１　　あの、ちょっと

男１　　ちょっとって？

女１　　私、虫が苦手で

男１　　うん

女１　　で、ゴキブリが出たんですよ

男１　　うん

女１　　パニックになっちゃって。フライパン振り回して追いかけたんです

男１　　うん

女１　　で、フライパン振り回したら、台所の蛇口が取れました

男１　　え？

女１　　取れたんです。蛇口が。根本から

男１　　それは、折れたんじゃないの？

女１　　取れたんですよ。ポロって感じで

男１　　それは想像するにバキって感じだと思うけど

女１　　それで部屋中水浸しになっちゃって。水は止めてもらったんですけど、やっぱり水漏れしてましたね

男１　　ああ、そういうことなんだ

女１　　ごめんなさい

男１　　部屋は大丈夫なの？

女１　　ベッドとかは平気なんですけど、床はまだ水が少し

男１　　大変だね

女１　　だから、まだしばらく水漏れするかもしれません。本当にごめんなさい

男１　　いや、仕方ないよ。後は男３さんに事情を説明して

女１　　男３さんって、さっきの？

男１　　うん。ニコニコ不動産の人

女１　　ニコニコ不動産だったらもう連絡してありますよ

男１　　え？　そうなの？

女１　　はい。修理はしばらく時間がかかりそうだって

男１　　でも、男３さん何にも言ってなかったけど

女１　　聞いてなかったんじゃないですか？

男１　　何それ？

女１　　男３さんって、男１さんが呼んだんですか？

男１　　うん、そう

女１　　すれ違いでしたね

男１　　でも、それなら事情把握してきてほしいな

女１　　ごめんなさい

男１　　いや、女１さんが謝ることじゃないよ

女１　　でも、悪いのは私ですから

男１　　悪いのは男２先輩だよ

女１　　さっきの先輩ですか？

男１　　うん

女１　　仲いいんですね

男１　　どうかな？

女１　　男１さんって、どこの大学ですか？

男１　　中将大学。文学部歴史文化学科の三年生

女１　　中将大学ですか

男１　　女１さんは？

女１　　二条大学の一年生です

男１　　まだ入ったばっかりなんだ

女１　　はい。歴史文化学科ってことは、考古学ですか？

男１　　そう。よく知ってるね

女１　　考古学っておもしろいですか？

男１　　まあ、おもしろいといえばおもしろいけど

女１　　専攻は何なんですか？

男１　　専攻？　まあ、強いて言えば国内かな

女１　　国内？

男１　　奈良時代や平安時代の建造物とか文化遺産とか

女１　　へえ

男１　　邪馬台国にも興味はあるんだけど

女１　　畿内説とか九州説とかですよね

男１　　よく知ってるね

女１　　さっきの先輩はどうなんですか？

男１　　男２先輩？　専攻とかあるのかな。世界中回ってる人だから

女１　　世界中？

男１　　ゼミの教授に連れて行かれるんだ。ペルー、インド、エジプト、インドネシア、カンボジア

女１　　ナスカの地上絵、マチュピチュ、タージマハル、王家の谷、ボロブドゥール、アンコールワット

男１　　すごいね

女１　　そうですか？

男１　　詳しいんだ

女１　　そんなことないです

男１　　好きなの？

女１　　嫌いです

男１　　え？

女１　　考古学は嫌いです

　　女１はベランダに出る。

女１　　あ

男１　　どうしたの？

　　女１はバケツを持ってきて、バケツの水をベランダからまく。

男１　　え？

女１　　逃げましょう

男１　　どうしたの？

女１　　早く

男１　　ちょっと待ってよ

　　男１・女１、退場。

【４】

　　玄関のチャイムが鳴る。男４がいる。

男４　　おい、開けろ。どういうつもりだ。出てこい。開けろ。ふざけるなよ。誰だ、水かけたの。開けろ。開け……お、開いてるじゃねえか。入るぞ

　　男４、登場。濡れている。

男４　　おい、これは一体どういう……何で誰もいないんだ

　　間。

男４　　何だ？　このバケツ

　　間。

男４　　この部屋、すぐ下だよな

　　男３、登場。

男３　　手を挙げろ

男４　　え？

男３　　犯人だな

男４　　は？

男３　　どうして濡れてるんだ？

男４　　いや、これは

男３　　殺してバスタブに沈めたんだろ

男４　　え？　何で？

男３　　動くな。動くと撃つぞ

男４　　待って

男３　　動くなって言ってるだろ

男４　　ちょっと落ち着いてよ

男３　　落ち着いてるよ

男４　　何なんだよ、一体

　　男２、登場。

男２　　しらばっくれるな

男４　　え？

男２　　目撃証言の通りだ。身長は少し高め。眼鏡をかけて痩せた男

男３　　その通りです

男２　　犯人はお前だ

男４　　先輩？

男３　　え？

男２　　誰が先輩だ

男４　　男２先輩でしょ

男２　　お前、誰だ？

男４　　男４ですよ

男２　　男４？

男４　　はい

男２　　おお、男４

男３　　知り合いですか？

男２　　ああ、大学の後輩です

男３　　へえ

男２　　お前が殺人犯だったのか

男４　　え？

男２　　捕まえてください

男３　　確保

男４　　待ってください

男２　　ダメだって、自首しなきゃ

男４　　待って

男２　　何だよ

男４　　俺は殺人犯じゃありません

男３　　え？

男２　　どうして？

男４　　どうしてって何ですか？

男２　　殺人犯なんだろ？

男４　　違いますよ

男２　　そんなわけあるか

男４　　誰も殺してないです

男２　　じゃあ何殺したんだ

男４　　何も殺してない

男３　　嘘をつくな。殺人犯なんだよ、お前は

男４　　何で決めつけるんですか

男２　　いつかやると思ってました

男４　　何のコメントですか

男２　　濡れてるじゃねえか。バスタブに沈めて殺して濡れたんだろ。それでそのまま逃げてきたんだろ

男４　　違います。外にいたら水が降ってきたんです

男２　　何それ？

男４　　さっきそこにいたら、いきなりバシャって

男３　　そんなことあるわけないだろ

男４　　あったんですよ

　　女２、登場。

女２　　お兄ちゃん

男３　　え？

男４　　女２

女２　　お兄ちゃん、殺人犯だったの？

男４　　違う

男３　　どうします？

女２　　捕まえてください

男２　　よし、確保

男４　　何でだよ？

男２　　大人しくしろ

男４　　女２、どういうつもりだ

女２　　お兄ちゃん、今までありがとう

男４　　冗談になってない

男２　　逃げるな

男３　　あなた誰ですか？

女２　　あ、申し遅れました。妹の女２と申します

男２　　妹？

男４　　女２、お前、何しにきたんだ

女２　　別に

男４　　どうして俺がここにいるって分かった

女２　　つけてきたの

男３　　つけてきた？

男２　　尾行か。やるな

男４　　何やってるんだよ

女２　　外で話聞いてた

男４　　そういうことじゃない

女２　　お兄ちゃんこそ何やってるの？

男３　　そうだ。外にいたって言ったな。何やってたんだ

男４　　いや、別に何も

男３　　とぼけるな

女２　　お兄ちゃんはストーカーです

男４　　おい

男３　　それはやっぱり警察に連れていった方が

男２　　確保

男４　　違う。やめて

女２　　ほら、帰ろう

男４　　嫌だ

女２　　どうして？

男４　　どうしてもだ

男３　　ストーカーってどういうことですか？

男２　　狙いは誰だ

男４　　俺はストーカーじゃありません

女２　　ここまで来てるんだから立派なストーカーじゃない

男４　　ちょっと様子を見にきただけだ

女２　　だったら部屋まで行けばいいでしょ

男４　　お前に関係ないだろ

男３　　どういうことですか？

女２　　お姉ちゃんに会いにきたんです

男４　　女２、余計なことを言うな

男３　　お姉ちゃん？

女２　　私の姉で、お兄ちゃんの妹です

男４　　上の部屋が妹の部屋なんです

男２　　上って、この上？

男４　　はい

男２　　お前が殺したのか？

男４　　何の話ですか

男２　　お前の妹、殺されたよ

男４　　は？

女２　　殺された？

男３　　上の部屋で殺人事件があったんです。若い女性がバスタブに沈められて殺されました。私たちはその犯人を追ってるんです

女２　　嘘でしょ？

男２　　本当だ

男４　　まさか、女１が

女２　　お姉ちゃんが殺された？

　　男４、退場。

男２　　あ、待て

女２　　それ、本当なんですか？

男３　　被害者があなたのお姉さんかどうかは、まだ分かりませんが

男２　　間違いないだろ

女２　　そんな

男３　　そういえば、男１さんは？

男２　　さっきの子もいないな

男３　　どこに行ったんでしょう

男２　　逃げたんじゃないかな

　　女２は出ていこうとする。

男２　　どこへ行くんだ

女２　　様子を見てきます

男２　　やめろ。危険だ

女２　　でも

男３　　まだ犯人が捕まってないんです

女２　　お姉ちゃんが死ぬわけないでしょ

男３　　落ち着いて

男２　　気持ちは分かる。でも我慢するんだ

男３　　犯人は私たちが必ず捕まえます

女２　　お姉ちゃん

男２　　お兄さんとお姉さんは仲良かったの？

女２　　え？

男２　　教えてくれないかな

女２　　仲が良いというか、お兄ちゃんが一方的にお姉ちゃんのことを好きなんです

男２　　へえ

女２　　で、お兄ちゃんがべったりだから、お姉ちゃんはお兄ちゃんのこと嫌ってました

男３　　それでストーカーなんですね

女２　　はい。お兄ちゃん、エジプトに行ってたはずなんですよ

男３　　エジプト？

男２　　ああ、そうだ。男４、エジプトで就職したんだ

男３　　すごいですね

女２　　帰ってきたのは、多分、お姉ちゃんに会いたかったから

男２　　でもお姉ちゃんは会ってくれない

女２　　お姉ちゃんは、お兄ちゃんが嫌で一人暮らしを始めたんです

男２　　そうなの？

女２　　お兄ちゃんは一人暮らしに反対してて

男２　　原因はそれだな

男３　　何がですか？

男２　　犯人はやっぱり男４だ

女２　　え？

男３　　それ、おかしくないですか？　妹の方が兄を殺すなら分かりますけど

女２　　そうです。お兄ちゃんがお姉ちゃんを殺すわけありません

男２　　考えてみてください。男４は妹に会いたくてわざわざ日本に帰ってきた。でも妹は兄が鬱陶しくて、素っ気ない態度

男３　　それでカッとなって

女２　　まさか

男２　　愛情は突然憎しみに変わるんです

男３　　見事な推理です

男２　　間違いない。犯人は男４だ

女２　　お兄ちゃんが、まさか

　　男１・女１、登場。女１はフライパンを持っている。

男１　　違うよ

男３　　え？

女２　　お姉ちゃん

男２　　え？

男１　　誰も死んでない。殺人事件なんかデタラメだ

男２　　どういうことだ

男１　　この子、女１さん。上の部屋の住人

男２　　生き返ったのか

男１　　死んでないって言ってるだろ

男３　　じゃあ、殺人事件は

男１　　全部こいつの妄想です

男３　　そうなんですか？

男２　　迷宮入りか

男１　　死んでしまえ、名探偵

女２　　お姉ちゃん、生きてたの？

女１　　当たり前でしょ

女２　　よかった。お姉ちゃんが殺されるわけないもんね

女１　　どういう意味？

女２　　お姉ちゃん、殺したって死なないじゃない

女１　　何それ？

女２　　逆にお兄ちゃんが殺されそう

　　間。

男２　　この間は何？

男３　　そういえば、お兄さんはどうしたんですか？

女１　　え？

女２　　そう。お兄ちゃん、上に行ったよ。会わなかった？

男１　　会ったよ

男２　　で、どうしたの？

男１　　フライパンで殴った

男２　　は？

男１　　女１さんがフライパンで殴った

女２　　何で？

男１　　俺に聞かないでよ

女１　　お兄ちゃん、死んじゃったかもしれない

男１　　いや、死んではないと思うけど

男２　　殺人事件だ

男１　　喜ぶな

男３　　何があったんですか？

男１　　女１さんがベランダでお兄さんを見つけて、バケツの水をかけて

男２　　あ、それで濡れてたんだ

男１　　で、上の部屋に隠れて、お兄さんが入ってきたところを後ろからフライパンで

女２　　何てことするの

女１　　仕方ないでしょ。やっちゃったんだから

男３　　で、お兄さんは？

男１　　上で気絶してる

男２　　残忍な手口だ

女２　　何でそんなことするの？

女１　　見ると殺したくなるの

男３　　すごい兄妹ですね

男２　　動機は十分だな

女１　　女２、何しに来たの？

女２　　お兄ちゃんを追いかけてきたの

女１　　どうして？

女２　　お姉ちゃんに会ったら、絶対ケンカになるでしょ

男１　　ケンカどころじゃない気がするけど

女２　　お兄ちゃん、お姉ちゃんを連れて帰る気だよ

女１　　分かってる

男３　　兄妹ならきちんと話し合えば

女２　　どうするの？

女１　　じゃあ、殺す

男３　　え？

女２　　何言ってるの？

女１　　バスタブに沈めて息の根を止める

女２　　やめてよ

　　女２は女１を捕まえる。

女１　　放して

男１　　女１さん、落ち着いて

男２　　男１、やめろ

男１　　何だよ

男２　　これは兄妹の問題だ

男１　　あんた、おもしろくしたいだけだろ

男２　　うん

男１　　帰れ

男２　　この状況で帰れるわけないだろ

男１　　だいたい、あんたが話をややこしくしてるんだろうか。殺人事件？　ねえよ、そんなもん。これ以上余計なことをするな

男２　　おい、落ち着けよ

男１　　教授を呼ぶ

男２　　え？

男３　　教授？

男１　　教授に言われてたんだ。あんたを見つけたら連絡くれって

男２　　聞いてないぞ

男１　　黙ってたんだよ。あんたが警戒しないように

男２　　卑怯だ

男１　　あんたに卑怯なんて言われたくないね。諦めろ

　　男１は携帯電話を取り出し、電話をかける。

　　男２は男１から携帯電話を取り上げ、バケツの中に入れる。

男１　　何てことするんだよ

男２　　思い知ったか

　　男１はバケツの中から携帯電話を取り出す。電話はもう使えない。

男１　　てめえ、よくも

男２　　ハッハッハ。残念だったな。これで連絡はできないだろ

男１　　諦めて捕まれよ

男２　　嫌だね。俺は自由に生きるんだ

男３　　話が全く見えないんですけど

女２　　女２、放して

女１　　ダメだって

【５】

　　男５、登場。

男５　　失礼

女１　　え？

男２　　げ

　　男５は男２を捕まえる。

男２　　待て。やめろ。放せ

　　男５は男２を連れて出ていく。

女１　　誰ですか？

男１　　教授

女２　　あれが？

男３　　行っちゃいましたよ

男１　　ええ

　　男２・男５、戻ってくる。

男２　　何するんだよ

男５　　よ、男２

男２　　よ、じゃねえよ

男５　　捜したぞ

男２　　何でここが分かった

男５　　着信があったから

男２　　どこから来たんだよ

男５　　大学から

男２　　早すぎるだろ

男５　　どこでもドアがあるだろ（※３）

男２　　ねえよ

男３　　言ってることがメチャクチャですけど

男１　　この人たちに常識は通用しない

男５　　さ、男２。行くぞ

男２　　どこに？

男５　　カンボジアだよ

男２　　は？

男５　　遺跡修復チームから正式に依頼があった。アンコール遺跡の修復に行く

男２　　行かないよ

男５　　いや、行くだろ

男２　　何しに来たんだよ

男５　　お前を連れに来たんだよ

男２　　いらねえよ

男１　　ほら、行け

男２　　ふざけるな。こんな悪魔召喚しやがって

男１　　何でそんなに嫌がるんだよ

男２　　お前は教授のこと知らないからそんなこと言えるんだよ

女２　　そんなに大変なんですか？

男５　　大したことないよ

男２　　大したことあるだろ。毎回死にそうになるだろうが

男５　　そうだっけ？

男２　　何にも覚えてないのか、あんたは

男５　　楽しい思い出しか残らない

男２　　悪夢だぞ

男３　　何があったんですか？

男２　　初めて拉致されたのは大学一年の夏。何にも知らない俺はスコップ一つ持たされてゴビ砂漠に放り出された。あんた、何て言ったか覚えてるか？

男５　　トリケラトプスの卵の化石を見つけてこい

男２　　見つけるまで帰ってくるなって言ったな

男５　　ああ、言った

男２　　もう少しで死んでたぞ

男５　　いいだろ、見つかったんだから

男１　　それで死なないあんたがすごいよ

男３　　大変なんですね

男２　　大学二年の夏、アマゾンで迷子になった俺を見捨てて、この人は先に日本に帰った

男５　　いいだろ、帰ってこられたんだから

男２　　ピラニアに襲われたら普通は死ぬんだよ

男１　　だから何であんたは死なないんだよ

男２　　世界中連れ回されて、大学は卒業できないし

男５　　大丈夫。まだ一年ある

男２　　こいつは悪魔みたいな人間なんだよ

男５　　お前だって似たようなもんだろ

男２　　俺はただの落語家だ

男１　　詐欺師だろ

男２　　まんじゅうは怖くない（※４）

男３　　大学ってそんなに大変なんですか？

男１　　普通は違います

男２　　あんたたちのお兄ちゃんも、同じような目に遭ってるんだぞ

女１　　そうなんですか？

男２　　シベリアの永久凍土で凍りづけになったり

女２　　そんな

男２　　インドネシアの作業現場で生き埋めになったり

女２　　ひどい

男２　　一歩間違えばあいつも死んでたな

女１　　何で死ななかったんだろう

男５　　お兄ちゃんって、誰？

男２　　この子たち、男４の妹

男５　　男４？　あいつエジプトじゃないのか？

男２　　戻ってきたんだよ

男５　　どうして？

女２　　じゃあ、お兄ちゃんが毎年夏休みにいなくなってたのって

男２　　こいつが原因だ

女１　　どうして連れて帰ってきたんですか

女２　　何で文句言うの？

男５　　夏休みはゼミの学生を連れて行くことにしてるんだ

男２　　俺は休みとか関係なく連れ去られるんだが、どうしてだ？

男５　　お前、どうせ授業出ないだろ

男２　　出るよ

男５　　どうせ卒業できないだろ

男２　　するよ

男５　　諦めろ

男２　　お前、それでも大学教授か

男３　　何か、かわいそうですね

男１　　こいつに同情したら負けですよ

女１　　教授、お願いがあるんですけど

男５　　何？

女１　　お兄ちゃんをカンボジアに連れていってください

女２　　え？

男５　　ああ、いいよ

女２　　ダメだよ、せっかく帰ってきたのに

女１　　いいじゃない

男２　　それがいい

男１　　何で？

男２　　俺の代わりに行ってもらおう

男５　　お前は行くんだよ

男２　　何でだよ

女２　　お兄ちゃんに会ってあげて

女１　　どうして？

女２　　お姉ちゃんに会いに来たんだよ

女１　　そんなのいらない

女２　　あんなにお姉ちゃんのこと好きなのに

女１　　だからそれがいらないの

女２　　お姉ちゃん

女１　　お兄ちゃんなんかいらない

　　男４、登場。

男４　　女１

女１　　お兄ちゃん

男４　　生きてた。女１、よかった

女１　　捕まえて

男４　　え？

女１　　早く

男５　　よし、任せろ

女２　　ちょっと、お姉ちゃん

男２　　確保

男３　　はい

男１　　え？　何で？

　　男２・男３・男５が男４を捕まえる。

　　男３と男４を一緒に縛る。

男４　　何するんだ

男３　　どうして私まで捕まったんですか？

男２　　勢い

男５　　男４、久し振りだな

男４　　教授。何でいるんですか？

男５　　お前、エジプト行ったんじゃなかったのか？

男４　　逃げてきました

男５　　どうして？

男４　　あんなとこにいられるわけないでしょ

男２　　お前、せっかく就職できたのに

男４　　どうして俺の就職先を勝手に決めるんですか。どうして俺はエジプトで焼肉屋をやることになってるんですか

男５　　こいつが履歴書書いて送ったから

男２　　送れって言ったの、あんたでしょ

男１　　この人たち最悪だ

男４　　上で俺を殴ったのは誰ですか？

男５　　何それ？

男４　　殴られたんですよ、後ろからいきなり。誰がやったんですか？

　　男２は男１を指さす。

男４　　お前か

男１　　ちょっと待て

　　男４が動くと男３も一緒に動いてしまう。

男４　　どういうつもりだ

男３　　ちょっと、引っ張らないでください

男１　　いや、あの

女１　　やめて、お兄ちゃん

男１　　え？

男４　　どけ、女１

女１　　先輩は悪くないの

男４　　何でこいつをかばうんだ

男１　　この状況は何？

男２　　愛する二人がかばい合うって素敵だね

男１　　は？

男４　　どういう意味ですか？

男２　　愛する二人

女２　　そうなんですか？

男２　　そうなんです

男１　　何言ってるんだ、あんた

男４　　貴様、妹に何をした

男１　　何にもしてない

男２　　そうだよ。まだこれからだよ。ほら

　　男２は男１にコンドームを渡す。

男１　　え？

男４　　何だ、それは

男２　　コンドーム

男４　　貴様、許さん

男３　　痛い、引っ張らないで

男１　　あの、お兄さん

男４　　貴様にお兄さんなどと呼ばれる筋合いはない

男１　　話聞いてください

男４　　聞く耳持たん

男１　　何でこんなことになるんだよ

男４　　女１はな、俺の大切な妹なんだ。貴様のような奴に妹はやらん

女１　　いい加減にして

男４　　女１

女１　　私が誰と付き合おうと、お兄ちゃんには関係ないでしょ

男１　　え？

男４　　ちょっと目を離したらすぐこれだ。だから一人暮らしは反対だったんだ

女１　　余計な口出ししないで

男４　　くだらない男に引っかかりやがって

男１　　くだらない？

女１　　先輩はとってもいい人なんだから

男４　　いい人？　どうでもいい人の間違いじゃないのか

男１　　ちょっと待ってください。どうでもいいって何ですか

男４　　どうでもいいからどうでもいいって言ったんだ

男１　　何であんたにそんなこと言われなきゃいけないんですか

男４　　本当のことだろ。妹に寄ってくるのはくだらない男ばっかりだ

男１　　あんたの方がよっぽどくだらないだろ

男４　　何だと

男１　　あんた、妹の気持ち考えたことあるのか

男４　　当たり前だろ。俺は兄貴なんだ

男１　　だったら兄貴らしいことしてみろよ

男４　　してるじゃないか

男１　　全然してないよ

男４　　女１を守れるのは俺だけだ

男１　　ふざけるな

　　男１はバケツの水を男４にかける。

女１　　先輩

男４　　何するんだ

男１　　あんたに守られなくたって生きていけるよ。あんたは自分の意見を押しつけてるだけだろ

男４　　押しつけてなんかない

男１　　どこがだよ

男４　　俺は妹のことを考えて

男１　　あんた、妹と一緒にいたいだけだろ

男２　　妹大好きだもんな

男４　　そうだよ。だってこんなに可愛いんだぞ。一緒にいたいに決まってるじゃないか

女２　　お兄ちゃん

男４　　女１は大事な妹なんだ。俺が面倒見て、こんなに可愛く育って、俺とずっと一緒だったんだ

男２　　お前、そろそろ妹離れしろよ

男４　　誰にも渡さないぞ。俺は女１と一緒にいたいんだよ

女１　　お兄ちゃん、もうやめて

男４　　女１

女１　　もう分かったから

男４　　じゃあ

女１　　でもダメ

男４　　え？

女１　　私はお兄ちゃんと一緒にいるのが嫌なの

　　間。

男２　　俺、こういう間に耐えられない

男１　　先輩、黙って

男３　　あの、私にも水がかかったのはどうしてなんでしょうか？

男２　　そんなところにいるからですよ

男３　　だったらほどいてくださいよ

女２　　お兄ちゃん、もういいよ

男４　　え？

女２　　もういいから

男４　　どういうことだ？

女２　　どうして仲良くできないんだろう。兄妹なのにね

女１　　女２

女２　　お姉ちゃんには大切な人ができたの

男４　　そんなの俺は認めない

女２　　私たちがいると邪魔なんだよ

男４　　そんなことない

女２　　ねえ、お兄ちゃん

男４　　何だ？

女２　　私が大学に行って一人暮らしするって言ったら、お兄ちゃんは心配してくれる？

男４　　何だよ、それ？

女２　　心配してくれないよね

男４　　するに決まってるだろ

女２　　嘘

男４　　嘘じゃない

女２　　お兄ちゃんはお姉ちゃんのことばっかり

男４　　そんなことないよ

女２　　私、お姉ちゃんがうらやましかった

男４　　え？

女２　　だって、お兄ちゃんがいつも一緒にいるんだもん

男４　　……

女２　　お姉ちゃんなんか、いなくなればいいと思ってた

男４　　……

女２　　私は悪い子だ

女１　　女２

女２　　お姉ちゃんをよろしくお願いします

男１　　え？

女２　　私の大好きなお姉ちゃんを、よろしくお願いします

男１　　ああ

男５　　男４

男４　　何ですか？

男５　　人の気持ちっていうのは、なかなか伝わらないものだ

男４　　……

男５　　お前が気持ちを押しつけようとすればするほど、相手は逃げていってしまうぞ

男４　　……

男５　　だから、一緒にカンボジアに行こう

男４　　は？

男５　　カンボジアに行って、妹のことは忘れるんだ

男４　　何ですか、それ

男２　　頼んだぞ、男４

男４　　嫌ですよ。何でカンボジアなんですか

男５　　お前の妹に連れていってくれって頼まれた

男４　　女１

女１　　行ってらっしゃい

男４　　嫌だ。俺は女１と一緒に暮らすんだ

男５　　わがまま言うんじゃない

男１　　どっちもわがままだと思う

男３　　あの、私はほどいてもらえないんでしょうか

男４　　女１

女１　　何？

男４　　上の部屋、水浸しだったな

女１　　うん

男４　　どうやって生活するんだ

女１　　何とかなるよ

男４　　一度、家に帰ったらどうだ

女１　　嫌

男４　　家に帰ってゆっくり話し合おう

女１　　話すことなんかない

男４　　女１

女１　　大丈夫だよ。私、ここに住むから

多数　　え？

女１　　先輩、よろしくお願いします

男１　　何で？

　　男２は男１にコンドームを渡そうとする。

男２　　持っとけ

男１　　いらないよ

男２　　いるだろ

男４　　ちょっと待て。どういうことだ

男１　　俺に言わないでください

男４　　女１、本気か？

女１　　本気だよ

男４　　ダメに決まってるだろ

女１　　どうして？

男４　　どうしてって

女２　　付き合ってるんだから、一緒に住んだっていいじゃない。ね？

男１　　え？

男２　　心配するな。ちゃんと避妊させるから

男４　　当たり前だ

女１　　ふしだらな娘ですがよろしくお願いします

男４　　そういうときはふつつかって言うんだ

男１　　わざと言ってるでしょ

女１　　はい

男４　　ダメだ

女２　　お兄ちゃん、もう諦めなよ

男４　　だったら俺もここに住む

多数　　え？

男４　　こういう状況なら、保護者も必要だろ

女１　　保護者なんか必要ない

男４　　お前はまだ未成年だろ

女２　　邪魔しちゃダメだよ

男４　　いいや、邪魔してやる。徹底的に邪魔してやる

男１　　あの、俺の意見は

男５　　カンボジアは？

男４　　行きませんよ

男５　　じゃあ男２

男２　　俺は行かない

男５　　行こうよ、カンボジア。アンコール遺跡の修復しようよ

男２　　子どもか

男５　　お前だけが頼りなんだ

男２　　何で俺ばっかり連れていくんだよ

男５　　そりゃ、お前が一番優秀だからだよ

男１　　え？

男５　　フィールドワークにおいて、ということではな。遺跡の修復となると一筋縄ではいかないんだよ。修繕の方向性を決める直感とか感性っていうものが必要になる。さらにそれを裏付ける知識。アンコール・ワットに代表されるアンコール遺跡群ができたのはおよそ千年前。その歴史と文化、特に仏教の知識、さらに地質学や植物の知識、おまけに現地の人間とのコミュニケーション能力。こんなに向いてる人間がどこにいる？

男１　　先輩ってすごいんですね

男２　　心がこもってないぞ

男３　　現地の言葉を話せるんですか？

男２　　いや

男５　　こいつは二週間もあれば言葉が通じるようになる

男１　　さすが詐欺師

男２　　スラングなら得意だ

男５　　というわけだ。行ってくれるか？

男２　　嫌だ

男１　　先輩、行けば？

男２　　何でだよ

男１　　だって、こんなに必要としてくれる人って滅多にいないよ

男２　　そんなことないよ

男５　　俺はお前を連れていくまで帰らないぞ

男１　　え？

男２　　勝手にしろよ

男１　　先輩

男２　　何？

男１　　お願いだから行ってください

男２　　嫌だよ

男１　　じゃあどうするんだよ

男２　　俺もここに住む

男１　　は？

男２　　よろしく

男１　　出て行け

男５　　じゃあ俺もここに住むから

男１　　どうしてですか

男３　　あの、私はそろそろ帰りたいんですけど

男２　　よし、みんなでここに住もう

男１　　できるわけないだろ、そんなこと

男２　　やってできないことはない

男１　　行けよ、カンボジア

男２　　わがまま言うな

男１　　あんたがわがままだ

男５　　そうだぞ

男２　　あんたがわがままだろ

男１　　あんたが怒ることじゃない

男２　　そんなに嫌ならお前が出ていけ

男１　　俺の家だ

女１　　私、お邪魔ですか？

男１　　いや、そういうわけじゃ

男４　　妹を邪魔者扱いか

男１　　あなたは邪魔です

男３　　あの、私、そろそろ帰っても

男２　　ダメだ。あんたもここに住むんだ

男３　　え？　どうして？

男１　　とにかくみんな帰ってくれ

女２　　お兄ちゃん、帰ろう

男４　　嫌だ

男２　　おもしろくなってきた

男１　　いい加減にしてくれよ

女１　　分かりました

男１　　え？

女１　　私がカンボジアに行きます

多数　　え？

女１　　教授、私、女１です。よろしくお願いします

男５　　女１さんか。はい、よろしく

男１　　ちょっと待って、女１さん

女２　　お姉ちゃん、本気なの？

女１　　うん。私、決めたから

男１　　そんな簡単に

女１　　大丈夫です

男１　　大丈夫じゃないよ

男２　　素晴らしい。俺の分も頑張ってくれ

男１　　お前、最低だな

男４　　ダメだ。そんな危険なところに行っちゃダメだ

女１　　お兄ちゃんには関係ないでしょ

男４　　ダメだ

男２　　行かせてやれ。あの子の気持ちを尊重するんだ

男１　　あんたは自分の気持ちを尊重しすぎだ

男５　　大変だぞ

女１　　分かってます

男４　　女１

女１　　先輩

男１　　何？

女１　　一緒に行ってくれますよね？

男１　　え？

女１　　私のこと、守ってくれますよね？

男１　　え？　何で？

男２　　何でって、お前、それはひどいだろ

男４　　そうだ。妹の気持ちを踏みにじるつもりか

男１　　だって、急にそんなこと言われても

女２　　お姉ちゃんのこと、よろしくお願いします

男１　　ちょっと待ってよ

男５　　じゃあ決まりだな

男２　　男１、格好良いぞ

男１　　全然嬉しくない

女１　　よろしくお願いします

男１　　そんな

男４　　ちょっと待った

男２　　何だよ

男４　　女１が行くなら俺も行く

男１　　は？

男４　　妹だけ危険な目に遭わせられない。女１は俺が守る

女１　　お兄ちゃん

男４　　物事がそんなに都合良く行くと思うなよ

男１　　俺の都合は？

男５　　三人は多いぞ

女１　　じゃあお兄ちゃんだけ連れてってください

男５　　分かった

男４　　え？

男５　　よろしく頼む

男４　　あの、女１は？

男５　　行かないって

男４　　あの、俺は妹が行くならって

男５　　危険なところへ連れていけないんだろ。いいじゃないか

男４　　だったら先輩に

男５　　じゃあお前が説得してみろよ

男４　　そんな

男２　　俺を説得できると思うなよ

男５　　何だったら、現地の焼肉屋とか紹介してやるぞ

男４　　何で焼肉屋で働かせたいんですか

男５　　よし、行こう

男４　　待って。俺は日本を離れたくない

男３　　ちょっと。何で私も一緒なんですか

男２　　縛ってあるから

男３　　ほどいてください

男５　　まあいいや。一緒に行こう

男３　　どうして

男４　　誰か助けて

女１　　がんばってね

男５　　男２

男２　　何だよ

男５　　明日の飛行機で行くから

男２　　行かないよ

男５　　行きたくないのか？

男２　　……

男５　　行きたくないなら留守番してろ

　　男３・男４・男５、退場。

【６】

男１　　行っちゃった

男２　　ああ

女２　　行っちゃいましたね

男１　　よかったのかな？

女２　　いいんじゃないですか？

男１　　いいの？

女２　　生きてればいいです

女１　　女２

女２　　何？

女１　　いつからそんなに兄妹思いになったの？

女２　　何が？　私はずっとそうだよ

女１　　嘘ばっかり

男１　　どういうこと？

男２　　あれ？　気付かなかった？

男１　　何が？

男２　　さっきの演技だよね

男１　　は？

女２　　よく分かりましたね

男２　　当たり前だろ

女２　　結構自信あったんだけどな

男２　　嘘は臭いで分かる

男１　　え？　何が？

女１　　この子が兄妹愛について語るところ

男１　　そうなの？

女１　　どういうつもり？

女２　　お姉ちゃんが一人暮らしをしてくれてると、私が大学行ったときにも一人暮らしがしやすいかなって

女１　　そんなことだろうと思った

男１　　じゃあ、お兄さんは？

女２　　あんな兄貴はいなくなってせいせいします

男１　　本当に？

女２　　どうしてですか？

男１　　いや

女２　　でも、お姉ちゃんには負けるな

女１　　何が？

女２　　彼氏じゃないでしょ

男１　　知ってたの？

女２　　見れば分かります

男１　　じゃあ何で

女２　　お似合いだと思いますよ

男１　　え？

女２　　お姉ちゃんをよろしくお願いします

男１　　それって

女２　　この人と付き合うのは大変だと思いますけど

女１　　女２

女２　　じゃあ私、帰ります

女１　　ちょっと

女２　　たまには帰ってきてね、お姉ちゃん

女１　　うん

女２　　それじゃ

　　女２、退場。

男１　　何かすごい兄妹だね

女１　　先輩

男１　　何？

女１　　いろいろ迷惑かけてすみませんでした

男２　　いや、いいよ

男１　　何であんたが言うんだよ

男２　　おもしろかったろ

男１　　大変だったよ

男２　　そうか？

男１　　どこからどこまで本当なんだ

男２　　嘘と本当の境界線で生きていくのが楽しいんだろ

男１　　あんたは根っからの詐欺師だな

男２　　嘘をつくコツ、教えてやろうか

男１　　何それ？

男２　　嘘に本当のことを混ぜておくんだ。だからあの子の言ったことも本当、俺が言ったことも本当

男１　　嘘くさいな

女１　　おもしろいですね

男２　　だろ？

男１　　あんたの言葉は信用できないんだよ

男２　　信じろよ

男１　　だったら本当のこと言えよ

男２　　え？

男１　　カンボジア、行きたくないの？

男２　　行きたくない

男１　　それは俺でも分かるよ

男２　　よし、じゃあ賞品をやろう

男１　　え？

　　男２は男１にコンドームを渡す。

男１　　何これ？

男２　　コンドーム

男１　　いらねえよ

男２　　貰っとけ。これからたくさん使うんだから

男１　　何で？

男２　　付き合ってるんだろ？

男１　　付き合ってない

男２　　照れるなよ

男１　　早く帰れ

男２　　怒るなよ

男１　　あんたは真面目な会話ができないな

男２　　餞別だよ

男１　　結局また留年か

男２　　まだ一年ある

男１　　好きにしろよ

男２　　じゃ、行くわ

男１　　ああ

男２　　避妊しろよ

男１　　早く行け

男２　　じゃあな

男１　　ああ、またな

　　男２、退場。

女１　　おもしろい人ですね

男１　　迷惑だよ。あの人といると疲れる

女１　　そうですか？

男１　　女１さんもよく分からない人だね

女１　　よく言われます

男１　　本当と嘘の境界線

女１　　え？

男１　　いや、何でもない

女１　　すみませんでした。変なことに巻き込んじゃって

男１　　いや、いいよ

女１　　迷惑な兄で、本当に恥ずかしいです

男１　　考古学が嫌いなんだよね

女１　　え？

男１　　それはお兄さんのせい？

女１　　はい

男１　　いなくなってせいせいした？

女１　　はい

男１　　そっか

女１　　どうしたんですか？

男１　　嘘っていうのは、裏返したら本当の気持ちになる

女１　　え？

男１　　だよね？

女１　　どうでしょう？

男１　　考古学まで嫌いにならないでほしいな

女１　　じゃあ、先輩が教えてください

男１　　え？

女１　　考古学のこと

男１　　アンコールは無理だけど、国内なら

女１　　はい

　　間。

女１　　じゃ、そろそろ帰ります

男１　　部屋、大丈夫？

女１　　ええ、多分

男１　　そう

女１　　また来てもいいですか？

男１　　ああ、いいけど

女１　　バケツの水が溜まったら、外にまきに来ます

男１　　それはやめてよ

女１　　それじゃ

男１　　うん

　　女１、行きかけて戻る。

女１　　あの、さっきの話ですけど

男１　　何？

女１　　国内だったら連れてってくれるんですよね？

男１　　そういう話だったの？

女１　　そうだと思ったんですけど

男１　　いいよ

女１　　楽しみにしてます

男１　　ああ

　　女１、退場。

　　男１はバケツを見る。

　　終わり。

【参考】

※１　薬物乱用防止のキャッチコピー

※２　「名探偵コナン」青山剛昌

※３　「ドラえもん」藤子・F・不二雄

※４　「饅頭こわい」落語